

# 令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【馬宮西小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策	
知識・技能	文章を正しく読む、正確に四則計算を行うといったことに課題が見られた。次年度に向けては基礎基本的な学習の定着を図るとともに、何を聞かれているのか、問われているのかをしっかりと理解する力の育成が必要と感じる。本年度行ってきたルーブリック目標を継続して行っていき、児童が目標をもって学習に取り組み環境を形成するとともに、正しく問題を理解しているのか、教師がしっかりとみとりを行ってほしい。	
思考・判断・表現	自分の考えをしっかりと他者に伝える、表現するということがまだまだ課題が見られる。自分の考えを表現できるよう、ノートだけではなくICT機器などを活用して行ってほしい。また何を聞かれているのか、問われているのかを正しく把握させるためにも、問題を分析し、何を聞かれているのかを確認してから問題解決を行っていくことを継続して取り組みたい。	

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<p>&lt;学習上の課題&gt; 算数「変化と関係」における速さの変換 算数「数と計算」における四則に関して成り立つ性質 &lt;指導上の課題&gt; 個人差が大きい。反復や振り返りの時間が十分に確保できていない。</p>	⇒ ルーブリック目標を立てることで、児童が主体的に学習に関わり、学び方の選択を行えるよう授業を展開していく。【各単元】 計算タイムの時間を活用し、既習の振り返りや前学年の復習などドリルパークや計算ドリル、プリントを用いて児童の置きに早く気づき、個別指導を行っていく。【週1回】
思考・判断・表現	<p>&lt;学習上の課題&gt; 算数「変化と関係・データの活用」における読み取り 算数全般において自分の考えの説明 &lt;指導上の課題&gt; 考えがもててもそれをうまく表現できない。語彙力が低い。</p>	⇒ 出題された問題を全体で分析し、何を聞かれているのかを確認してから問題解決を行っていく。【毎授業】 授業の振り返りを行い、自分の考えを整理し、順序立てて授業で理解したことを表現させていく。【毎授業】 自分の考えをオクリンク上に提出することでクラスで共有するとともに友達への考えにも触れられるようにする。【毎授業】

⑤	評価(※)	調査結果	学力向上策の実施状況
知識・技能	B	週1日、計算タイムと称し業前の時間を確保して復習を行ってきたが、どうしても今学習している単元が中心となり、全体的な復習にはいたらなかった。授業におけるルーブリック目標では、自分で目標を設定することで意欲的に学習に取り組む姿が見られた。読解力を深めるよう読書月間では、多様な本と触れ合えるよう委員会が読書ビンゴなど楽しい取組を行い、多くの種類の本を読むことができた。	
思考・判断・表現	B	オクリンクや共同編集などを活用することで、友達の見解を知ることができ、またなかなか自分の意見を出せない児童も友達の見解を参考にしながら自分の意見を表現することができた。問題を全体で一度確認しながら取り組むことで、何を聞かれているのかを意識して考えることができるようになってきた。	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語では語合いの記録の書き表し方を問う問題で適切なものを選択したり、正しい漢字を書いたりすることに課題が見られた。算数においてはグラフの読み取りや単純な計算については正答率が高い傾向にあるものの、台形を選ぶ問題では、台形の定義がしっかりと定着していないせいか、自分のイメージする児童が多く、正答率が極端に低かった。また量りの目もりを読み取る問題では目もりがいくつかを把握できず、多くの児童が正しく解答できなかった。理科においては電気を通すもの、磁石に引きつけられるものや顕微鏡の正しい使い方において課題が見られた。多くある情報から必要な情報を選択する力とともに、基礎的な知識を習得することに課題が見られた。	
思考・判断・表現	国語では記述問題において与えられた条件で文章を書くことに課題が見られた。算数においては全体的に思考・判断・表現の問題は正答率が低い傾向が見られた。特に正しい方を理由を添えて答える問題では正しい方を選択できたにもかかわらず、それを説明することができていない児童が多く見られた。理科では水の状態変化の知識はあるものの、それを生かして思考することを苦手とする児童も見られた。聞かれていることに対して正しく答えることや自分の思いや考えを相手にわかりやすく伝える力に多くの課題が見られた。	

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語では主語と述語の関係といった文法理解に課題がみられる。読書等本校児童は本に親しみ、文章には多くふれているものの深く読み取っていないことがうかがえる。感覚的に知識を得ている児童も多く見受けられ、理解が伴っていないものと思われる。算数においては、小数、分数の計算に課題が見られた。小数や分数の仕組みを理解しきれていないことが関係しているようである。生活と結びつけて考えさせることで理解を深めさせていきたい。社会では図や資料の読み取りに課題が見られた。図や資料が何を表しているのか、また問題が何を問っているのかを読み取れていないようである。問題文を読み取る力を向上させていく必要性を感じる。	
思考・判断・表現	国語では書くこと、読むことに大きな課題を感じる。書くことに関しては特に文章の構成を考える問題において正答率が低い傾向が見られた。また自分の考えを表現することに苦手意識をもつ児童が多く、調査においても顕著に現れた。読むことにおいては必要な情報を読み取ることに課題が見られた。文章読解と共に、必要な情報はどれなのか分析・判断する力が弱く、正答率の低下に繋がっていると考えられる。算数では中学年の測定、高学年の変化と関係の領域で高い正答率が見られた。しかしグラフの読み取りや複数の情報から思考する問題において正答率の低下が見られ、応用力に課題が見られた。	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	ルーブリック目標を自分で決定し、自分の目標を達成できるように授業を展開している。朝学習の時間にドリルパークやプリントを用いて復習に取り組んでいるが、今学習している単元の復習がメインになってしまっているため、全学年の復習も行い、基礎学力の定着を図りたい。	問題読解を深めるため、文章をしっかりと読み込めるよう読書活動の充実を図る。【読書月間】
思考・判断・表現	B	オクリンク等を用い、自分の考えを伝えたり、友達の見解を共有したりすることができた。問題を全体で確認しながら取り組んできたが、一人ひとりがしっかりと何を聞かれているのかを把握してから問題解決に取り組んでほしい。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)